

耳鼻咽喉科 研修で経験が望ましい項目 (minimum requirement)

	4 週の場合	日付	回数
A	患者の病歴、所見をまとめ、検討会でプレゼンができる		
A	頭頸部領域の画像を理解できる		
A	静脈路確保ができる		
A	化学療法患者の全身管理ができる		
A	手術後の観察の注意点がわかる		
A	術後の輸液、予測指示ができる		
A	局所麻酔ができる		
A	皮膚器械縫合ができる		
A	抜糸、ドレーン抜去ができる		
A	頭頸部手術の術後創処置ができる		
A	額帯鏡を使用して、鼻腔、口腔の診察ができる		
A	ファイバースコープの扱い方がわかる		
	8 週の場合		
B	耳手術の助手ができる		
B	CCD カメラを用いて眼振を観察し、所見を記載できる		
B	ファイバースコープを用いて、鼻腔および咽喉頭の観察ができる		
B	内視鏡下鼻副鼻腔手術 (ESS) で鼻ポリープ切除ができる		
B	気管カニューレの取り扱いができる		
B	頭頸部癌患者の疼痛ラダーを理解し、適切な指示ができる		
B	頭頸部外傷を理解できる		
B	頭頸部手術で、皮膚切開、皮弁挙上ができる		
B	頸部エコーの扱い方を学べる		
	12 週の場合		
C	顕微鏡で耳内の観察ができる		
C	人工内耳手術前後の検査、管理について理解できる		
C	幼児難聴の対応法がわかる		
C	顔面神経麻痺の評価、検査を理解できる		
C	鼻出血の初期対応ができる		
C	口蓋扁桃摘出術が執刀できる		

C	咽喉頭の急性炎症、気道緊急の評価ができる		
C	気管切開術が執刀できる		
C	末梢挿入型中心静脈カテーテルが挿入できる		
C	化学放射線療法患者の管理ができる		
C	頭頸部手術で第 1 助手が務められる		

- A 4 週間で経験することが望ましい
- B 8 週間で経験することが望ましい
- C 12 週間で経験することが望ましい